

第51回放送フォーラム



TPPとはいったい何か

～その本質と問われるメディアの姿勢～

「TPPとは、米国の多国籍企業に富を吸い上げていく装置」。経済学者の萩原伸次郎氏はTPPをそう定義しています。そして、農業や医療までもが利潤追求のターゲットにされ、食の安全も脅かされる「命の危機」に見舞われる、と警鐘を鳴らしています。

一方、放送を語る会が実施したニュース番組のモニターによれば、「農産物に例外品目を設けることが実現できれば、あとはわが国にとってメリットの多いものになる」といった論調が主流でした。それは、政府の主張とほとんど同じです。

今回のフォーラムは、テレビのニュース番組のモニター結果を問題提起に、研究者から見た「TPPとは」を萩原氏に語ってもらう中で、その本質とは何かを明らかにしていきます。

第1部 番組モニター報告「テレビはTPPをどう伝えたか その2」

放送を語る会

第2部 講演 横浜国立大学名誉教授 萩原伸次郎氏

講師プロフィール

1947年 京都市生まれ

1976年 東京大学大学院経済研究科博士課程単位修得退学

1990～1991年 米国マサチューセッツ大学経済学部客員研究員

2000～2002年 横浜国立大学経済学部長

著書 『アメリカ経済政策史』『米国はいかにして世界経済を支配したか』
『日本の構造「改革」とTPP』など多数

日時 2013年4月27日(土) 13:30～16:30

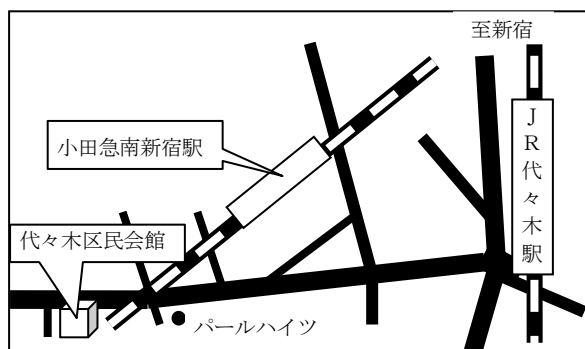
場所 代々木区民会館集会場

(JR代々木駅から徒歩8分)

主催 放送を語る会

協賛 日本ジャーナリスト会議

メディア総合研究所



お問い合わせは放送を語る会事務局まで

小滝 090-8056-4161 今井 090-4678-7132